

2泊3日の移住体験

日本一広い市である高山市に移住してみようかな？と考えている方はこの長引くコロナ禍で増えるのでは？と考えています。しかし広すぎて高山市に住むとなると分からない方も多く、古い街並みのイメージだったり、ものすごく山深い所ばかりなのか、調べるのも大変だろうと思います。そんな中、今回の久々野の物件は高山の田舎暮らしを体験していただくのにはぴったりじゃないかと思いました。

-移住体験施設にする為の準備

1. 基本は現状で貸し出しで大丈夫かと思いますがやはり、水回りのリフォームは必須
2. 宿泊に必要な布団や、生活用品一式、周辺移動手段の電動自転車、Wi-Fi の設備の設置
3. 菜園管理や、体験イベントの開催、地元の情報の提供、施設管理をしていただける地元の方の採用(体験中のあれこれをLINE などを通じて体験者と繋がっていただく事も必要)
4. 移住体験者への食材などのサービス品は市内企業や農家さんからの規格外野菜の寄付などを募る(宣伝効果を期待して企業イメージアップに繋がるはず)足りない分は購入
5. 以上の費用は体験代金だけでは賄えないかもしれませんが体験者に SNS での発信していただく事と、それを市役所からも発信することにして、宣伝費と考える

-移住体験したい方への条件

1. 高山市に移住希望の意思のある家族である(SNS にて発信していただく事が必須なので事前に利用可能な事を確認)
2. 移住体験期間は最低 2 泊 3 日から最長 14 泊 15 日までとする
3. 移住体験期間中は SNS にて、毎日移住先で行ったことを配信すること(動画や写真とコメント#高山移住体験つける)
4. 家庭菜園での体験か、地元の体験イベントを期間中一回無料で体験し、SNS にて発信すること(野菜収穫時期なら収穫、植え付け時期なら植え付けなど気候でできない場合もあるので、組み紐体験やさるぼぼ作成体験など何種類か準備して移住体験施設にて開催)
5. 体験期間中の清掃などは自分達で責任を持って行うこと
6. 体験終了後に高山市の移住体験の印象や、移住施設の感想、移住意思は体験前と後でどう変化があったかなどのアンケートに答えること
7. 体験料金は 1 人 1 日 1,000 円とする
8. 高山市で収穫された食材を大人標準 1 人 1 日分プレゼント(調理後の SNS 発信する事)
9. 体験終了後に高山市のお土産をプレゼント
10. 体験終了後、一年以内に高山市に移住した家族にはお米一年分プレゼント

-移住体験施設のメリット

1. 全国に似たような施設は沢山ありますが高山に必要な理由はやはり、高山市の広さです。実際に田舎に暮らして貰って移動には車が必須な事や、季節感もわかってもらえるのでは？
2. SNS にて発信していただく事で、費用を抑えながらも宣伝効果を得られ、興味ある全国の方にみてもらえる
3. 実際に移住していただければ人口増加になるし、移住後のこんなはずじゃなかったという事が少なく、快適に高山市に定住して貰える
4. 好評ならば、旧市外にある数ある空き家を地区ごとに移住体験施設として配置して、より自分達にあった場所を探してもらうことも可能

-体験プランの流れ 1日目

1. 体験者家族が施設に到着(10時)
2. 案内係が施設や内容の説明、体験プランの日時の確認(11時)
3. 体験開始(開始の SNS 発信)を案内係が行う(12時)
4. 施設の中を探検などして、プレゼントの食材で高山ラーメンを食べる(13時)
5. 電動自転車にて美女高原でゆったり過ごす(15時)
6. 車で追加したい食材購入にスーパーへ(16時)
7. プレゼントの飛騨牛や地元野菜でバーベキュー買ってきた飛騨の地酒で乾杯して、ゆったりと1日目終了

-体験プランの流れ 2日目

1. プレゼントの飛騨コシヒカリやめし泥棒やほうばみそで旅館気分の朝食(8時)
2. 菜園体験で色んなお話を案内係から聞きながら季節の野菜の収穫、案内係が SNS にて発信(11時)
3. 収穫した野菜でサラダを作ってランチ(13時)
4. 高山の街中へ車で出かけてみる(古い街並み散策など高山観光をたっぷりどうぞ)
5. 夕飯は街中で食べて帰って2日目終了

-体験プランの流れ 3日目

1. 街中で購入した美味しいパンをリメイクしてコーヒーと一緒にモーニング(8時)
2. 久々野の街中まで電動自転車でサイクリングしながら風景や雰囲気確かめてみる(11時)
3. 地元のスーパーで買ってきたお惣菜など食べて高山の市民の食卓を再現(13時)
4. 施設とも今日で最後、お片付けをして案内係から高山の特産品プレゼント最後に色んな質問などしてください。体験終了を案内係が SNS で発信(14時)
5. ひろーい高山市をドライブしながら観光名所をチェックして、お帰りください